



平成28年1月4日

各位

会社名 株式会社リボミック
 代表者名 代表取締役社長 中村義一
 (コード番号：4591 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役執行役員管理部長 宮崎正是
 TEL. 03-3440-3303

平成28年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年1月4日開催の取締役会において、大塚製薬株式会社との共同研究の進展状況、製薬企業等との新規アライアンスに向けた活動の進捗状況等を踏まえ、平成27年5月14日付で公表いたしました平成28年3月期(平成27年4月1日～平成28年3月31日)の業績予想を以下のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 当期の業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	事業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
					円 銭
前回発表予想(A)	199 ～849	△439 ～200	△406 ～234	△407 ～216	△31.77 ～16.86
今回修正予想(B)	119	△474	△451	△452	△34.90
増減額(B-A)	△79 ～△729	△35 ～△675	△44 ～△685	△44 ～△668	
増減率(%)	△39.9 ～△85.9	—	—	—	
(参考) 前期実績 (平成27年3月期)	479	6	13	10	0.88

2. 修正の理由

平成27年5月14日発表の業績予想でお知らせのとおり、当社では、平成28年3月期の事業収益として、ライセンス収入(共同研究品目から1品、自社創薬品目から1品の合計2品)に加えて、共同研究収入(平成28年3月期中に見込まれる業務量や契約内容に従って計算した収入金額等)を見込んでおりました。しかし、他社との交渉状況や相手先の事情等により、かかる収益の今期中での計上について、その確実性を担保することが困難との判断から、以下の内容のとおり、業績予想を修正いたします。

①共同研究品目のライセンス・アウト遅延及び共同研究収入の下振れ

当社は、大塚製薬株式会社との共同研究品目から1品ライセンス・アウトを計画するとともに、平成28年1月以降も同社との共同研究を継続することを計画しておりました。しかしながら、本

日開示いたしました「大塚製薬株式会社との共同研究契約に関するお知らせ」のとおり、同社と契約しておりました2件の共同研究は、平成27年12月末に契約期間が満了し、RBM001に係るプロジェクトについては、両社にて、今後新規共同研究契約を締結して実施することで合意し、また、RBM002及びRBM003に係るプロジェクトについては、今後当社単独での開発を行なうことで合意し、本日開催の当社取締役会でもこれらを了承いたしました。これに伴い、共同研究品目中の1品のライセンス・アウト実現によるライセンス収入の平成28年3月期中での計上は、プロジェクトの進捗状況にもよりますが困難と判断し、平成28年3月期の事業収益には見込まないことといたしました。また、同社との共同研究収入に関しても、当社の対応する業務量が予定以上に減少する見込みとなったため、その見込み額を業績予想に反映いたしました。

② 自社創薬品目のライセンス・アウト及び新規共同研究契約の締結遅延

当社は自社創薬品目から1品のライセンス・アウト、及びアプタマー創薬技術に関するプラットフォームである「RiboARTシステム」を活用した製薬企業との新規共同研究契約の締結を計画し、平成27年7月に新設した事業開発部を中心に、欧米の大手製薬企業を含む複数の製薬企業等との間で交渉を進めております。

しかしながら、当社が望むスケジュールや経済条件でのライセンス・アウト、さらに新規共同研究契約の締結に関しては、技術評価、製品評価や条件交渉等に時間を要する状況となっております。このため、平成28年3月期中の自社創薬品目（候補品はRBM006、RBM007及びIgGアプタマー）のライセンス・アウトや新規共同研究契約の実現に関し不確実性が高い状況と判断し、保守的な観点から、これらに基づく収益を平成28年3月期の事業収益には見込まないことといたしました。

③ 事業費用の圧縮

事業費用については、従来から戦略的な観点のもとで、その最適化を図るとともに適切な活用に努めております。前述のとおり、当初計画していた事業収益に齟齬が生じる恐れが生じたことから、その影響を低減すべく、研究開発費については緊急性の低いものの削減、及び販売費及び一般管理費についてもその圧縮にも取り組み、事業費用の見込み額を減額することといたしました。

3. 中期経営計画について

平成27年5月14日に中期経営計画として平成29年3月期の業績も開示しておりますが、それについては、前述のとおり平成28年3月期におけるライセンス・アウト及び新規相手先との新規共同研究契約締結の実現に関し不確実性が高まり、今後の交渉経過に大きく影響を受ける状況となっております。

このような状況に鑑みて、慎重に検討を進めた結果、平成29年3月期の業績に関しては、今後の交渉経過等を総合的に勘案する必要があるとの結論に至りました。

現時点において、当社としては、平成29年3月期では、共同研究品目から1品、自社創薬品目から1品のライセンス・アウト及び新規共同研究契約の締結実現に向けた事業活動を進めることに変更はございません。しかし、大塚製薬株式会社との今後の取組みを含めて、平成29年3月期の見通しが明確になった時点で、平成29年3月期の業績予想を改めて公表させていただきます。

4. 今後の取組みについて

当社のビジネスモデルにおいて、継続的かつ安定的な収益確保のためには、製薬企業と継続的に共同研究を実施し、それによる共同研究収入を計上するとともに、そこから創製された品目を当該製薬企業にライセンス・アウトすることに加えて、自社創薬品目のタイムリーなライセンス・アウトによる収入が不可欠です。当社はそのため、以下のとおり対応をさらに推し進め、早期の収益計上の実現に努めてまいります。

①自社創薬品目等に係る取組みについて

現在複数の自社創薬品目のライセンス・アウトや、新規相手先との共同研究などのアライアンスについて、欧米製薬企業等での評価が継続しております。当社としては、これらの評価を早期に終えるための活動や交渉を強化し、なるべく早い時期の実現を目指し、引き続き最大限の努力を払ってまいります。

②大塚製薬株式会社との共同研究品目に係る取組みについて

これまで大塚製薬株式会社との共同研究として進めてきた RBM001 の新規契約への移行は、当初計画との差異はあるものの、当社としては研究開発の進捗を反映したものと歓迎しております。また、大塚製薬株式会社との共同研究として進めてきた RBM002 と RBM003 については、当社単独で開発を進めることとなりましたが、いずれのアブタマーも医薬候補化合物として十分な阻害作用をもつ製品として完成しているため、当社の判断として、今後、適応疾患の再検討や新規病態モデル動物での評価を実施して、当社の有力な自社製品として開発を進めて行く予定です。

(注) この文書に記載した当社の業績予想値に関しては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の決算手続きの中で確定し、異なる可能性があります。

以上